

## 新中学校の 起工式 晴れやかに

4月22日、旧伊田中学校の敷地と後藤寺中学校で、新中学校の建設工事を始めるための起工式が行われました。この日は、地元の区長や建設会社の関係者などが参加し、工事の無事を祈りました。二場公人市長は、新型コロナウイルスの影響で工事が遅れたことに触れ「ようやくこの日を迎えることができました。本市の子どもたちの未来を担う新中学校の建設という大きな節目を迎え、関係者のみなさんへ感謝の気持ちでいっぱいです」と話しました。



▲田川西中学校



▲田川東中学校



後藤寺中学校



伊田中学校



# 思い出たくさん ありがとう

本市では、市内7中学校が再編され、令和5年4月に「田川東中学校」と「田川西中学校」が開校します。校舎の取り壊しを控えた伊田中学校と後藤寺中学校では、校舎との別れを偲び、感謝を伝える催しが開かれました。

## それぞれの 思いを込めて

昨年7月14日、旧伊田中学校で「校舎さようなら会」が行われました。この日は、全校生徒をはじめ教職員、卒業生、地域のみならず感謝の気持ちやメッセージを書いた約220枚の布で校舎を装飾。長い歴史を一緒に歩んできた人々の思いに彩られた校舎を、ドローンを使って上空から撮影しました。「思い出を作る」という最後の役目を終えた校舎と向き合い、生徒たちは「ありがとう」「さよ

うなら」などと声を掛けながら、別れを惜しみました。

同中学校生徒会長（当時）の松岡拓哉さんは「思い出の詰まった校舎で卒業したかったので、寂しい気持ちもあります。旧校舎には「お疲れ様でした」と伝えたい」と感謝の思いを語りました。

また、昨年7月20日には、後藤寺中学校で「ありがとう！旧校舎」をテーマにブロックアートマッチが行われました。これは、旧校舎への感謝の気持ちを、黒板アートで綴ろうと企画されたもの。1クラスを8班に分け、1年生から3年生が縦割りブロックで作られた全16組が黒板アートを作成。旧校舎での思い出や感謝の気持ちなどが描かれた、さまざまなデザインが完成しました。参加した生徒たちは「思い出がたくさんあるので名残惜しい」「旧校舎には感謝の気持ちでいっぱいです」と思い思いに話しました。いずれの校舎も約40年の歴史があり、これまで多くの卒業生が旅立ちました。それぞれの思い出の詰まった学び舎。新しい校舎でもまた、その歴史と思いを受け継ぎ、本市で学ぶ子どもたちの成長の記憶と記録を刻み続けることでしょう。